



## ♡恋バナがしたい♡

F「今回のテーマは『恋』。ということで、やっぱり恋バナでしょうか？」

T「いえ……今回の対談は唐突に2本立てでお送りします」

M&F「え?!」

～その①「恋愛小説とか少女漫画のような恋はありえるのか?」～

M&T「ありえない……」

F「でも、ありえないから見ていて楽しいってのはあります」

M「そうねえ～。少女漫画に、お決まりの展開ってあるわよね。男の子(イケメン)の幼馴染がいて、隣に住んでたり」

T「幼少期にはなればなれになった人と運命的な再会をして、恋が始まったり……」

F「少女漫画あるあるですね。私は、ヒロインの相手役である男の子の、男友達、とか好きになってました」

M「ヒロインの相手!じゃなくて、そのポジションのキャラなのね……」

T「私は、子どもの頃、スーパー戦隊とか仮面ライダーに出てきたクールな感じがするキャラが好きでした。『〇〇ブラック!!』みたいな……」

M「特撮?!」

F「Tちゃん、恋の話からどんどん遠ざかっていく気が」

T「あ」

～その②「自分から行動しないと恋は始まらない」～

M「待っていても、『白馬に乗った王子様』は現れないのよ、Tちゃん!!」

T「は、はいっ!」

F「童話に出てくるお姫様にも当てはまりますよね。シンデレラとか、人魚姫もそうかも……」

T「舞踏会に行く、人間になって王子様に会いに行く……たしかに、自分で行動をおこしてます」

M「ね?そうでしょ。誰かに片思いしてる時が一番楽しいって聞くし、『恋は駆け引き!』なのよ」

F「ふ、深い!!……ののでしょうか」

T「メッ、メモしておきます……!?!」



←QRコードでも  
アクセスできます

インスタグラム公開中 ここにアクセスしてね★

<https://www.instagram.com/hondarake55>

# ホンダラケ

2023. 2.1

## 恋をしたい、恋をしている君に。

読んでもらいたい本がたくさん。

君にはどんな恋が待っているのでしょうか?

### 『私立五芒高校 恋する幽霊部員たち』

谷口雅美/著 講談社 2021年刊



F/タニ

「私立五芒高校」に通う生徒たちの片思い、両思い、両片思い……など、色々な恋が描かれた短編集。「幽霊部員」は、部に籍だけあって活動していない部員のことを意味していますが、この本においては、そうとは限らないかも……。

それぞれの目線から語られる恋は、ときに甘く、ときに切なく、ときに楽しく、見えてきます。高校生たちの恋、そこに青春とオカルトを交えた、かわいさのあふれる物語です。

### ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

# 青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「動物」  
ふかふかでモフモフの棚になるのかな。

## 『神様の御用人』

浅葉なつ／著 2013年刊  
KADOKAWA/メディアワークス文庫

フリーターの萩原良彦は、ひょんなことから狐の姿をした方位神の黄金によって『神様の御用人』になることを命じられる。一人と一柱は日本全国津々浦々の神社を巡りながら八百万の神々の御用を解決していく。章末には日本の神様についての豆知識の紹介もあるので、モフモフの黄金に癒されつつ神様についても知る事ができる一冊だ。



F/アサ

P.N. HCL (高校2年生)

## 「こんな本、棚から見つけました」のコーナー 『レベル別日本語多読ライブラリー』シリーズ

NPO 多言語多読/監修 アスク出版 2006年刊～

YAの新作コーナーからちょこっと視線を右に向けると、アラアラ何やら新しいコーナーが。それが「多読ブックス」のコーナーです。多読ブックスというのは、日本語を学ぶ人たちのために作られた、日本語を楽しく学ぶための本なんです。読む時のルールは「やさしいレベルから読む」「辞書を使わない」「わからなかったらとばす」。日本に生まれて日本語を話すのが当たり前の人たちには「なんだこれ？」な本かもしれませんが、もし、自分が日本語を初めて学ぶ立場だったら???想像してみてください。そうか、外国の人にとって日本語ってこうなんだ!と新しい発見があるはずですよ。



810.7/ニホ

## 新着図書 Pick Up

### 『13歳から考える住まいの権利』

多様な生き方を実現する「家」のはなし

葛西リサ／著 かもがわ出版 2022年



毎日、「いってきます」と出て、「ただいま」と入る家。人の生活に不可欠な衣食住のうちの「住」。安心して住める場所を求めるのは私たちの権利の一つです。

この本は、「家」について、私たちが思いつくだろう疑問を拾いながら教えてください。家がないのはお金がないから？ 風雨がしのげれば家としては十分？ 一緒に住むのは血縁者でなければいけない？

「だれとどこに住むかは私が決める」社会に向けて考えてみましょう。

365.3/22

## 難しいと思われているけれど、実は面白い 名作があるから読んでみてほしいんです。

### 『ゲイルズバーグの春を愛す』所収「愛の手紙」

ジャック・フィニイ／著 早川書房 1980年刊

たとえば放課後、一人の教室。机の中に一通のラブレターが入っていた。宛先はわからない。気になって返事を出したら、その返事がまた机に届いていて――。

こんなシチュエーションにときめきフラグがたったら必読。「愛の手紙」は、現代のブルックリンに生きる男性と過去同じ町にいた女性とが手紙で心を通わせる短編です。決して会うことはできないけれど、互いに慕わしく思う二人。忘れがたい印象を残すロマンティックな物語です。



933/フイ